

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	長期計画道路新設改良事業	会計名称	一般会計		担当課	土木管理課	
		予算科目	8 款 2 項 5 目	事業番号	3541	所属長名	武智年哉
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	高井保雅	
法令根拠等	道路法				実施期間	【開始】	令和/平成 17 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 人に優しい道路・交通体系づくり					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	都市基盤の整備		道路・交通基盤の整備				
事業の対象	市道高野川駅線道路改良工事			事業の目的	幹線道路である市道を改良し住民の生活向上に寄与する。		
事業の内容 (整備内容)	市道高野川駅線道路改良工事			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1 年度予定	9月末の実績	1 年度実績
直接事業費	0	19,500	△ 5,754	0	8,000	4,280	工事請負費	千円	0	13746	0	4280
財源内訳	0	0	0	0	0	0						
国庫支出金	0	0	0	0	0	0						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	0	0	0	0	0	0						
一般財源	0	19,500	△ 5,754	0	8,000	4,280						
職員の人工 (にんく) 数	0.00	0.00				0.00						
1人工当たりの人件費単価	0	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	0	19,500				4,280						
主な実施主体	伊予市		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)			請負						
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	5年間の合計		
					8,000	10,000	10,000	10,000	10,000	48,000		
成果指標	指標	工事実施箇所÷道路改良要望箇所=実施率			単位	区分年度	前 年度	1 年度	2 年度	目標 毎 年度		
	指標設定の考え方	地元要望箇所に対する実施箇所の割合を上げることにより、市民生活の向上を図ることになる。			⇒	目標	0	1	1	1		
	指標で表せない効果					実績	0	0				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		平成30年7月豪雨災害復旧工事の関係で、労務者が不足している。								
事務事業の評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題	関連工事工程に合わせて、市発注工事を行う必要があるが、平成30年7月豪雨災害復旧工事の関係で、関連工事工程が遅れているが、J R委託工事工程に合わせて工事発注を行った。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4					
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげることができている。	4					
	効率的	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4						
			5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	4						
		コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4						
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	4							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 市民生活に密接した、新設改良工事であり事業継続とする。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4					
市の関与の妥当性			5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4						
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげることができている。	4						
効率的	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	3							
		5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	4							
	コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4							
市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	4								
所属長の課題認識	所属長の課題認識	担当責任者の記載の通り。								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 <small>地元から平成24年7月10日に高野川橋の老朽化による整備要望に発し、市道高野川駅線の改良なくして橋梁整備は不可能であることから平成26年度から市道改良、橋梁整備を合わせた計画推進とした。 平成27年8月26日には既設の高野川橋床版コンクリート片が丁R線路内に剥落したものの、幸いにも列車事故には至らなかった。その後、市道拡幅改良を施し、高野川橋桁（桁延長20m強）も大型トレーラにより運搬され橋梁の新設整備もされたことから、1日も早い橋梁取付市道整備を進め事業完結へ努めること。</small>	⇒	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。		

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容 <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性	コメント欄
	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する。	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/> 見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	